平成25年度　八戸市の財務諸表（普通会計）

概要版

市民の皆さんにより詳しく市の財政状況を理解していただくために、「総務省方式改訂モデル」を用いて財務諸表（４表）を作成しました。市の財政状況についてより詳細な分析を行い、これまで以上に効率的な財政運営を行ってまいります。（金額は平成25年度と平成24年度の比較）

バランスシート（貸借対照表）

「バランスシート」とは、市民の皆さまが利用する市の施設（財産）、市の所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金などがどのくらいあるかを示したもので、資産・負債・純資産の三つの要素から構成されています。

【借　方】

資　産　　3,233億円　←3,216億円（17億円増）

市が所有している財産の内容と金額です。
行政サービスの提供能力を示しています。

【内訳】

公共資産　　2,767億円←2,770億円（3億円減）
道路、公園、学校、庁舎など

投資等　　349億円←332億円（17億円増）
基金、出資金、長期延滞債権など

流動資産　　117億円←114億円（3億円増）
現金・預金、財政調整基金、市税未収金など

うち歳計現金　　34億円←　40億円（6億円減）

計　　3,233億円　←3,216億円（17億円増）

【貸　方】

負　債　　1,090億円　←1,098億円（8億円減）

借入金（市債）や将来の職員の退職金など、将来返済していく債務です。

純資産　2,143億円　←2,118億円（25億円増）

現在までの世代が既に負担して、支払が済んでいる正味の資産です。資産全体の66.3%を占めています。

計　3,233億円　←3,216億円（17億円増）

行政コスト計算書

市の行政活動は福祉や教育などでの人的サービスや給付サービスの提供など、資産形成につながらない行政サービスが大きな比重を占めています。そのためのコスト（原価・費用）がいくらかかっているかを整理したものが「行政コスト計算書」です。25年度の八戸市の1年間のコストの総額は751億円となります。

経常行政コスト（Ａ）　　778億円　←835億円（57億円減）

【内訳】

人にかかるコスト　　90億円←98億円（8億円減）
職員の給与・退職手当など

物にかかるコスト　　208億円←220億円（12億円減）
物品購入、光熱水費、施設などの修繕費、減価償却費など

移転支出的なコスト　　466億円←500億円（34億円減）
生活保護費や児童手当などの社会保障給付、各種団体への補助金、繰出金など

その他のコスト　　14億円←17億円（3億円減）
地方債の利子など

経常収益（Ｂ）　　27億円　←26億円（1億円増）
行政サービスの利用で市民の皆様が直接負担する施設使用料や手数料などです。

純経常行政コスト（Ａ）－（Ｂ）　　751億円　←809億円（58億円減）
経常行政コストから経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。

資金収支計算書

1年間の市の現金の収入（歳入）と支出（歳出）の差額が、どのような理由で増減しているかを性質別に区分して整理したものが「資金収支計算書」です。

期首（24年度末）資金残高　　40億円　←43億円（3億円減）

当期（25年度）収支　　△6億円　←△2億円（4億円減）

【内訳】

経常的な収支　　187億円　←　193億円（6億円減）
公共資産整備に係る収支　　△　40億円　←△39億円（1億円減）
投資・財務に係る収支　　△153億円　←△156億円（3億円増）

期末（25年度末）資金残高　　34億円　←40億円（6億円減）

純資産変動計算書

市の純資産（正味の資産）が、平成25年度中にどのように増減したかを示します。25年度末の八戸市の純資産残高は25億円増加しています。

期首（24年度末）純資産残高　　2,118億円　←2,100億円（18億円増）

当期（25年度）変動高　　25億円　←18億円（7億円増）

【内訳】

純経常行政コスト　　△751億円　←△809億円（58億円増）
一般財源等　　786億円　←　849億円（63億円減）
その他　　△10億円　←　△22億円（12億円増）

期末（25年度末）純資産残高　　2,143億円　←2,118億円（25億円増）